

No	項目	Q	A
1	全社	新型コロナウイルスの影響を2020年12月期業績計画に織り込んでいないとのことだが、現在、中国の工場はどういう状況か。	上海にある油圧機器事業の工場は2月11日から操業再開した。従業員も上海近くの出身が多いものの、帰省先から戻れてない従業員もいる状況が続いている。常州にある精密減速機の工場は2月17日に操業再開の予定だが、同様に帰省先から戻れない従業員もいるため、本格稼働までには至らない。 全体の影響度はどれぐらいになるか、コロナウイルス自体の収束時期を含めて把握が難しいため、今後も状況を注意深く見ていく。
2	全社	2020年12月期対2019年12月期の営業利益は生産性の改善による増益を10億円見込んでいるが、どの事業の貢献度が大きいのか。	具体的な内容は非開示だが、今までの自動化投資による効果。
3	全社	営業利益の変動要素(2020年12月期対2019年12月期比)において、資産の売却による増益に関して、詳しく教えてほしい。	遊休不動産を売却することを検討しており約15億円を計画に織り込んだ。
4	全社	20年の計画はボトムアップで立てているのか。	事業部門からでてきた数値に対してリスクがあればコーポレートで調整している。
5	精密減速機	精密減速機事業の2020年12月期の見通しの全体感を教えてほしい。	精密減速機の下期の売上は上期より9%増の見通し。19年ほど急激ではないが、下期に必要な回復を見込んでいる。
6	精密減速機	精密減速機事業の需要が2020年下期に回復すると予測した背景を教えてください。	以下の点から、19年の需要よりは回復を見込む。 ① 当社の精密減速機事業の受注トレンドから見ると、19年3Qの受注はQoQ、YoYともに、大幅に減少したが、4Qの受注はYoY-6%、QoQ+6%と若干の増加がみられる。 ② 2020年年初の日本ロボット工業会のコメントによると、産業用ロボットの受注額は前年比6%増の見通しであり、2018年から止まっている(自動車メーカーの設備投資)プロジェクトが動き始めると想定している。 ③ コロナウイルスの影響を除いて考えると、EV化、延期されているモデルチェンジの再開が今後の需要につながると思う。
7	精密減速機	世界的に自動車需要が低迷しているなか、自動車メーカーの設備投資によるロボットの需要及び精密減速機需要が戻ると予測した背景を教えてください。	① 当社の19年年末の受注残は約180億円で18年年末より少し増えた。この受注は上期の売上に反映するため、300億円の上期売上にある程度確保できると考えている。 ② 半導体業界に必要な回復の動きが少しできてきているので、今後産業用ロボット全体の需要回復につながることを期待する。
8	精密減速機	ロボット工業会の数値の動きは精密減速機の受注と一致しているのか。20年の上期に精密減速機の受注は回復するのか。またロボットの需要が急激に回復した場合、ロボットメーカーからの発注に生産としては対応できるのか。	ロボット工業会の受注統計は大型から小型まで含まれているため、弊社の精密減速機の受注と完全に一致するとは限らないため参考として見ている。 市況としては、日本市場の需要が堅調である一方、欧州市場の需要は低迷しているようにみえる。 受注について、20年は年間で右肩上がりの計画。受注残と照らし合わせた数値をもとに上期は作成している。下期についての動向までははっきりは見えない。 2017年くらいの需要であれば、現在の能力でも残業を入れて、十分に対応できると思う。
9	精密減速機	精密減速機の生産能力増強の計画を教えてください。	現在、グローバルで84万台の生産能力にとどめているが、建物の投資は実施したため、生産設備をいれれば稼働できる状況にしている。また、2022年以降の需要の拡大にむけて工場建設用の土地の買収も実施し、能力を増強できる体制は整えている。
10	精密減速機	2019年12月の国際ロボット展に展示した新たな超小型・超軽量減速機の引き合い状況を教えてください。小型ロボット市場への参入方針に変更はあるのか。	現在、引き合いはあるが、正式に顧客から採用されるまで、少し時間がかかると思う。通常は試作品を出して、顧客の評価・テストを経てから、受注につながると思っている。 小型は市場の伸びだけ考えれば大きいとは認識しているが、当社の事業としてはあくまで中大型産業用ロボットを中心に展開する。

11	油圧機器	2019年12月期の油圧機器事業の地域別売上、2020年12月期計画のインドネシア以外の地域別の市況見通しを教えてください。	① 2019年12月期の直接売上(地域別)、日本市場向け35%;中国市場向け60%;新興国(アジア・インド・トルコ等)向け5%。 ② 2020年12月期の計画は中国市場需要は19年並みに高い水準で推移し、東南アジア市場及びインド市場での需要回復を見込む。(コロナウィルスの影響を除く)
12	油圧機器	2019年12月期、2020年12月期の中国市場における、ローカル建機メーカー及び外資系の建機メーカーの強弱感を教えてください。	新聞等の報道によると、中国ローカル建機メーカーは市場シェアを増やし、外資系の建機メーカーは市場シェアをやや落としている様子。当社は中国ローカル建機メーカーにも納めているため、シェアの変動による影響は限定的。20年についても市場シェアの動向はあまり変わらないとみている。
13	航空機器	2020年に航空機器事業の売上が増加する背景を教えてください。また、737MAXの売上構成比はどのくらいか。	① 2020年12月期に、防衛省向け及びMRO向けの増収に加えて、民間向け777Xの生産レートの増により、増収の見通し。 ② 737MAXにおいて、19年12月までは納入したが、2020年1月、2月の納入は行っていない。 ③ 737MAX売上規模は非開示。連結売上に対して、影響度は低い。
14	航空機器	航空機器事業は2020年に売上増加の要因の一つはMRO向けの増加とのことだが、YoYでMRO売上はどれくらい伸びたかを教えてください。	2019年12月期の航空機器事業の売上228億円(防衛向け40%・民間向け60%)のうち、民間向け売上の20%はMRO向けだった。2018年に12月期において、航空機器事業の売上は185億円(防衛向け45%で民間向け55%)のうち民間向け売上の20%はMRO向けだった。割合から見ると、あまり伸びていないようだが、航空機器事業の売上が伸びたことに伴って、MROの売上も確実に伸びている。
15	OVALO	2020年12月期にOVALO売上増収の背景と昨年までの計画と比べての変化点を教えてください。また、今後の更なる成長のために必要な要素はなにか。	AUDI向け量産の通年貢献がベースとなり売上が伸びるとともに、買収前から供給契約のあるロボット向け減速機(小型・中小協調ロボットメーカー向け)の売上もあり、もともとの事業計画からあまり変動はない。今後はほかの顧客向けの案件も広げていく必要がある。新規顧客との交渉を進めている。
16	OVALO	OVALO業績実績及び見通し、その達成確度を教えてください。	① 18年売上20億円、19年売上14億円、営業損失約20億円、減損損失△13億円;20年(見通し)売上40億円、営業利益はトントンを目指す。 ②AUDI向けは専用ラインである。2020年は年間での量産効果により、稼働による貢献度は19年より高くなる為、業績の改善につながると思う。